

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670104969
法人名	東開メディカル有限会社
事業所名	グループホーム 灯夢想家
訪問調査日	平成20年1月16日
評価確定日	平成20年4月8日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 1月21日

【評価実施概要】

事業所番号	4670104969		
法人名	東開メディカル有限会社		
事業所名	グループホーム 灯夢想家		
所在地	鹿児島市 東開町 3番地 21 (電 話) 099 - 260 - 3030		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOさつま		
所在地	鹿児島市 下荒田 2丁目 48番 13号		
訪問調査日	平成20年1月16日	評価確定日	平成20年4月8日

【情報提供票より】(19年11月30日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年 1月 27日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 12 人、非常勤 5 人、常勤換算 14.8 人	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30.000 ~ 31.000 円	その他の経費(月額)	日 400 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(11 月 30 日現在)

利用者人数	18 名	男性 7 名	女性 11 名
要介護1	5 名	要介護2	9 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 83.5 歳	最低 73 歳	最高 97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	東開内科クリニック みやはら歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

交通量の多い産業道路沿いの工業団地に立地し、喧騒の中に心地良い癒しの空間をかもし出しているホームである。「その人らしく、地域との関わりを大切に」を理念のポイントとして掲げ一人ひとりの思いを十分把握し、その人を丸ごと受けとめている。職員は常に家庭の延長として生活できるケアとはどのような暮らしかを御本人の立場にたって追求している。きめ細かなケアと様々な工夫や配慮により、入居者がホームを自分の家として穏やかに生活している。ホームの24時間健康管理体制と、隣接地の医療機関との連携がとれていて、入居者家族等は安心して生活ができる。ますますの充実と発展が期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域との交流は町内会に加入しており、地域の行事の夏祭り、十五夜、敬老会等への誘いがある。又学校の行事に参加したり、学生のボランティア訪問や見学等も行なわれて改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	評価の意義について、職員一同で研究、研修を重ねてケアサービスの向上と振り返りの機会としてとらえている。自己評価を行う事により、全職員間の共通認識が高まり、改善に活かされている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	地域住民代表、家族等、入居者の参加を得て定期的に開催されている。ホームの取り組み状況、入居者の状況報告や外部評価等報告している。地域行事への誘いやグラウンドゴルフの実施の要望、転倒などの安全対策、日々の個別の記録の閲覧等多くの意見が出されている。出された意見を集約し、サービスの質の向上に活かすように取り組んでいる。結果報告はホーム便りに掲載したり、次回の会議において報告されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	運営推進会議や来訪時に意見や要望が出されている。感謝の意を表す言葉や病院受診について要望など書かれた文書が意見箱に入っている。出された要望等はミーティングで話し合い対応に努めている。結果はホーム便りに掲載している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入しており、地域の行事や学校の行事に参加している。又近隣の方が野菜等を持って立ち寄ってくれたり、学生や教会からのボランティア訪問や見学等交流は深く、関係を構築している。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が家族との絆を大切にしありのままに寄り添い触れ合いながら生活し、地域に密着した深い絆を結べるように全職員で考えた理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は常に理念を生きた方針として語っている。職員は理念を原点として共有しながら日々の実践に具体化しようとする意気込みが見られる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、地域の行事や学校の行事に参加している。又近隣の方が野菜等を持って立ち寄ってくれたり、学生や教会からのボランティア訪問や見学等交流は深く、関係を構築している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義について職員一同で、研究、研修を重ねてケアサービスの向上と振り返りの機会としてとらえている。自己評価を行う事により全職員間の共通認識が高まり改善に活かされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民代表、家族等、入居者の参加を得て定期的開催されている。ホームの取り組み状況、入居者の状況報告や外部評価等報告している。地域行事への誘いやグランドゴルフの実施の要望、転倒などの安全対策、日々の個別記録の閲覧など多くの意見が出されている。出された意見を集約しサービスの質の向上に活かすように取り組んでいる。結果報告はホーム便りに掲載したり、次回の会議において報告されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に事業所の取り組み内容や、医療費、身障者の手続き、生活保護の手続き等相談しながら関係作りを積極的に行い、協力関係を構築している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りの配布と家族等の来訪時に日々の暮らしぶりや身体状況を報告している。金銭管理は出納帳の写しや領収書により報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や来訪時に意見や要望が出されている。感謝の意を表す言葉や病院受診についての意見が意見箱に入っていることもある。出された要望等はミーティングで話し合い対応に努めている。結果はホーム便りに掲載している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と入居者・家族との馴染みの関係を重要視したケアを心がけている。個別担当者を決めているが全職員が関わりを持つ体制になっている。やむをえない異動の場合には介護力のバランスや職員、入居者との相性等に配慮しながらホームの理念やケアの考え方をしっかりと伝えて不安がないように取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画や研修係を設けている。段階に応じた研修に参加して、復命研修も報告されている。毎月勉強会も行なわれて各職員のレポート提出により意識向上と共有に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地区のグループホーム協会に加入している。実践者研修の受入れと見学交流や情報交換等、積極的に行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の折には自宅や施設に伺い、面談し利用者の生活状態、思いや不安を十分に聞いている。又来訪してもらい、職員、入居者と過ごしてもらいなど安心して利用できるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と寄り添い、触れ合う事を大切にしている。一人ひとりの生活歴や力を活かした役割(ラッキョウ漬け、梅干しづくり、菜園での作業、柿ちぎり、花いけ、リサイクルの工作)をしてもらう中で教わったり感動しながら支え合っている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望の表現は身体的な状況により違いのある事を職員は認識しており、言動や表情を注意深く観察しながらメンタル面のケアに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の身体状況や生活歴、希望を把握し、家族との連携を保ちながらケース会議を行い職員の気付きや意見を出してもらい、それらを反映した本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケース会議を行い、アセスメント表を見直し定期的な介護計画の見直し作成を行なっている。状態変化に応じて話し合いをし、都度の見直しをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間健康管理と医療連携体制ができている。又病院受診や外出など家族の希望や状況に応じて柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族の希望する医療機関とは相談連携を行い、入居者が適切な医療を受けられるように支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する指針を定めており、家族、医師、看護師を交えて話し合いを行なっている。家族の同意書もあり、職員は重度化に対する勉強会もし方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図るため尊厳に対する関わり方について精神保健の勉強会をしている。トレーニングの成果は言葉かけや接し方などのケアに活かされている。又職員採用時に守秘義務の誓約書も交わされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体としての一日の業務の流れはあるが、睡眠時間、食事時間、散歩、入浴等日常生活の中で一人ひとりの体調や状態、思いに配慮しながら入居者のペースで生活できるように支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と相談しながらメニューを決めている。買い物や下ごしらえ、調理、配膳などできる方と共に行かない、同じテーブルを囲んでサポートしながら楽しく食事をしている。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決められていない。一人ひとりの習慣や好みを聞いて希望する入浴の支援と同性介助を心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園での収穫、ラッキョウ漬け、梅干づくり、柿ちぎり、ブドウ狩り、大工仕事、裁縫、ぬり絵やゲートボール等、利用者の趣味や特技を発揮できるように支援し、共に季節感を感じながら日常生活をしている。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩、ドライブ、買い物、野外で行うレクリエーション等支援、また花見や遠足など季節感を満喫できる外出には車椅子の方にも参加してもらい、閉じこもらない支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者、職員は鍵をかける事の弊害を理解している。プライバシーに配慮しながら、見守りの徹底を図るために職員の業務体制を組み変える等の工夫をして安全に自由な暮らしができるように支援している。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと年2回防災訓練を行なっている。昼間、夜間想定訓練は職員、入居者で行なっている。緊急時の対応については町内会や近くの家族の方との協力関係も出来ており、災害時の備蓄もされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重や体調変化に留意しながら、一人ひとりの状態に合わせた食事量、水分量を把握している。身体状況に合わせておかゆやトロミ食等取り入れている。栄養士の指導による勉強会も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は入りやすく、季節の花々が活けられている。リビングはゆったりと明るいスペースで椅子やソファ、畳コーナーなど配置されている。季節感あふれる装飾物や家庭的な家具類の配置など工夫が行き届いている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	TV、位牌、タンスや椅子、リサイクルの工作物、転倒防止用のじゅうたんや防火布団の使用等、使い慣れた物品が持ち込まれて今までの暮らしを想像できるような居室になっており、安心して生活を楽しんでいる。		